

**利用促進ワークショップの実施結果について
（おおたけ幹線バス沿線お散歩マップの作成）**

平成 22 年 3 月 29 日

大竹市地域公共交通活性化協議会

□目 次

1. モビリティ・マネジメントについて.....	1
2. マップづくりの実施概要.....	3
(1) プログラムの概要.....	3
(2) マップづくりの実施概要.....	3
(3) 第1回ワークショップの実施内容.....	5
(4) 第2回ワークショップの実施内容.....	9
(5) 第3回ワークショップの実施内容.....	10

1. モビリティ・マネジメントについて

おおたけ幹線バスは、平成 21 年 10 月に実証運行を開始して以来、その利用者数は徐々に定着を続けているものの、今後、おおたけ幹線バスが実証運行を終えて、持続可能な公共交通として実現するためには、更なる利用促進を進めることが必要である。

モビリティ・マネジメント（MM）とは、人々の移動に関する「行動変容」（例えば、過度な自動車利用から、公共交通等を適切に利用する方向への変容。）を促すマネジメント施策のことであり、利用促進策の方法として、全国でも広く用いられている。

おおたけ幹線バスにおいては、実証運行を開始して間もないことから、十分な行動変容が行われていないと考えられることから、利用促進の方法として、モビリティ・マネジメント（MM）を実施することとした。

～ モビリティ・マネジメント（MM）の定義 ～

ひとり一人のモビリティ（移動）が、社会的にも個人的にも望ましい方向^{*}に自発的に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした交通施策

^{*}例えば、過度な自動車利用から公共交通・自転車等を適切に利用する方向

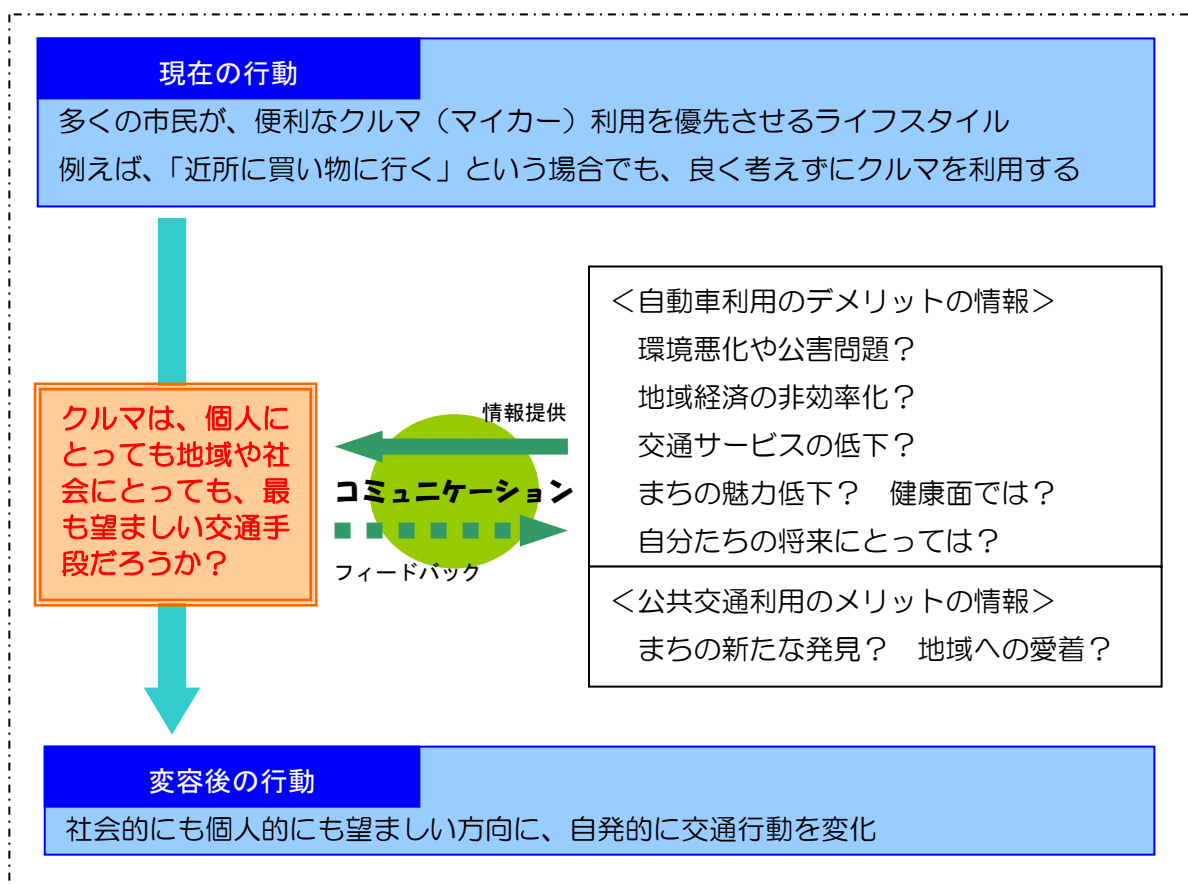


図 1-1 モビリティ・マネジメントの定義とイメージ

MMは、行動変容を促す対象の属性や環境に応じて、それぞれに適した手法を選択することが望ましい。一般に実施されているMMの施策としては、次のようなものが挙げられる。

表 1-1 一般的なMMの施策

対象別の分類	<ul style="list-style-type: none"> ①沿線に居住する住民（公共交通を利用しやすい環境にある沿線の住民に利用を促す） ②市内への転入者（新たに市内で生活を始める人に、公共交通に関する情報を提供して、利用を促す） ③新成人・運転免許取得者（新たに自動車免許を取得する人に、適切なクルマ利用を促す） ④児童（公共交通の利用が、自らが住む地域に役立つことを、意識づける） ⑤通勤者（公共交通が便利な職場を対象に、利用を促す）
手法による分類	<ul style="list-style-type: none"> ①公共交通の情報ツール配布（時刻表など動機付けになる情報） ②ワークショップの実施（住民による利用促進策の検討、ツールづくり等） ③学校との連携（授業で公共交通の役割を学ぶなど） ④アンケートの実施（アンケートと情報提供を同時に行い、交通について考える機会を提供） ⑤イベントによる考える場の提供

利用促進の方法としては、沿線の住民や職場を対象としたものを広く実施した。

中でも、おおたけ幹線バスにおいては、実証運行を開始して間もなく、その運行が十分認知されていないことが考えられることから、沿線の住民や来訪者を対象として、バスの利用方法に関する提案を住民の意見を交えて取り込むことが出来るものとして、マップづくりを実施するものとした。

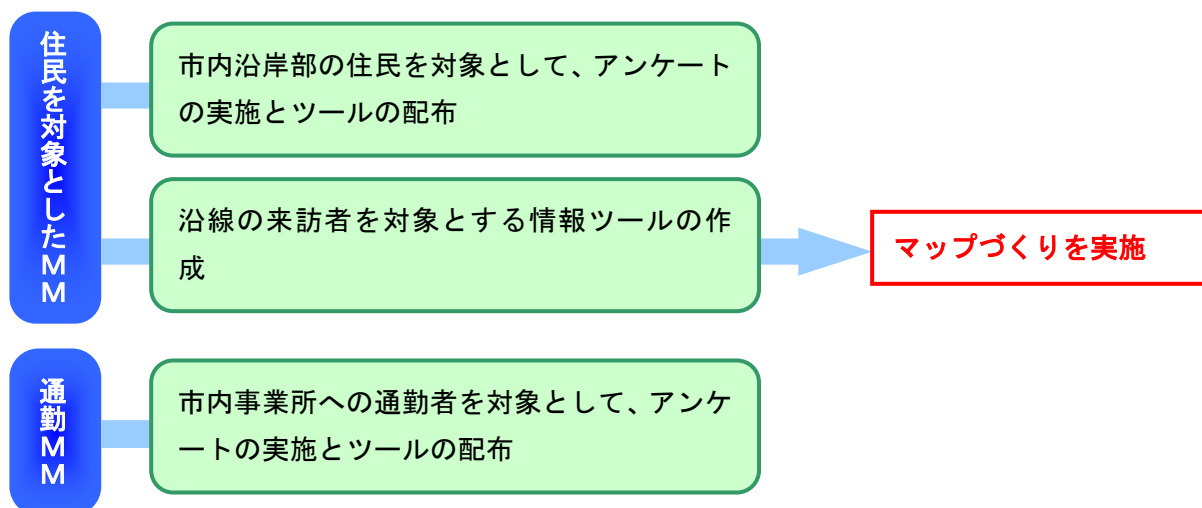


図 1-2 本事業で実施したMM

2. マップづくりの実施概要

(1) プログラムの概要

おおたけ幹線バスについて、「利用する時に役に立つ」もしくは「幹線バスに乗って出かけたくなる」ような情報ツールの作成プログラムを実施した。その際、ツール作成の参加者やツールの利用者の、沿線地域並びに大竹市への理解や愛着を深めるとともに、おおたけ幹線バスの利用促進につなげることを目的とするものとし、具体的には、まちあるきを通して、「幹線バスに乗って出かけたくなる」ようなマップづくりを行った。

プログラムの目的

- ・参加者が、楽しみながらプログラムに参加でき、まちあるきによる新たな発見を通して大竹市により愛着を持ってもらう
- ・「バスに乗って出かけたくなる」ようなマップを作成する

(2) マップづくりの実施概要

マップづくりの実施に当たっては、総合市民会館などを中心に生涯学習グループとして活動している「ひまわり塾」のメンバーに協力を頂き、ワークショップの形式で、地域に精通しているメンバーの方々から意見を頂く形で行った。

マップづくりワークショップは、合計3回の実施とし、そのテーマと流れは以下の通りである。

●第1回ワークショップ

- ・幹線バスについて考える
- ・グループ分け
- ・まちあるきポイントの選定



●第2回ワークショップ

- ・まちあるき（3グループに分かれて実施）
- ・ふりかえり（マップイメージ作成）



●第3回ワークショップ

- ・マップ作成
- ・発表会

図 2-1 マップづくりワークショップの流れ

表 2-1 実施状況

第1回		日時	平成22年1月15日(金) 15:00~
		場所	小方公民館
		参加人数	15人
第2回	大竹地区	日時	平成22年1月28日(木) 10:00~
		場所	総合市民会館を発着
		参加人数	6人
	小方地区	日時	平成22年2月18日(木) 13:00~
		場所	ゆめタウンを出発 小方公民館に到着
		参加人数	5人
	玖波地区	日時	平成22年2月19日(金) 13:30~
		場所	コミュニティサロン玖波を発着
		参加人数	6人
第3回		日時	平成22年3月19日(金) 14:30~
		場所	大竹市役所
		参加人数	18人

(3) 第1回ワークショップの実施内容

①第1回ワークショップの流れ

第1回ワークショップは、以下の流れで実施した。

表 2-2 第1回ワークショップの流れ

14:00～ (5分間)	■オリエンテーション
14:05～ (15分間)	■全体ワーク 幹線バスについて知ろう
14:20～ (30分間)	みんなでマップを考えよう
14:50～ (10分間)	～10分間の休憩～
15:00～ (20分間)	■グループワーク グループでマップを考えよう
15:20～ (20分間)	■おさらい 発表会とおさらい

②全体ワークの実施概要

全体ワークでは、まず導入として、以下のような幅広い意見を挙げてもらい、バスに関する認識の共有化を行った。

[質問内容]

- ・おたけ幹線バスに乗ったことがあるか否か
- ・おたけ幹線バスについて思うこと
- ・おたけ幹線バスに乗ってみて思ったこと
- ・おたけ幹線バスの問題点・課題点

■得られた意見

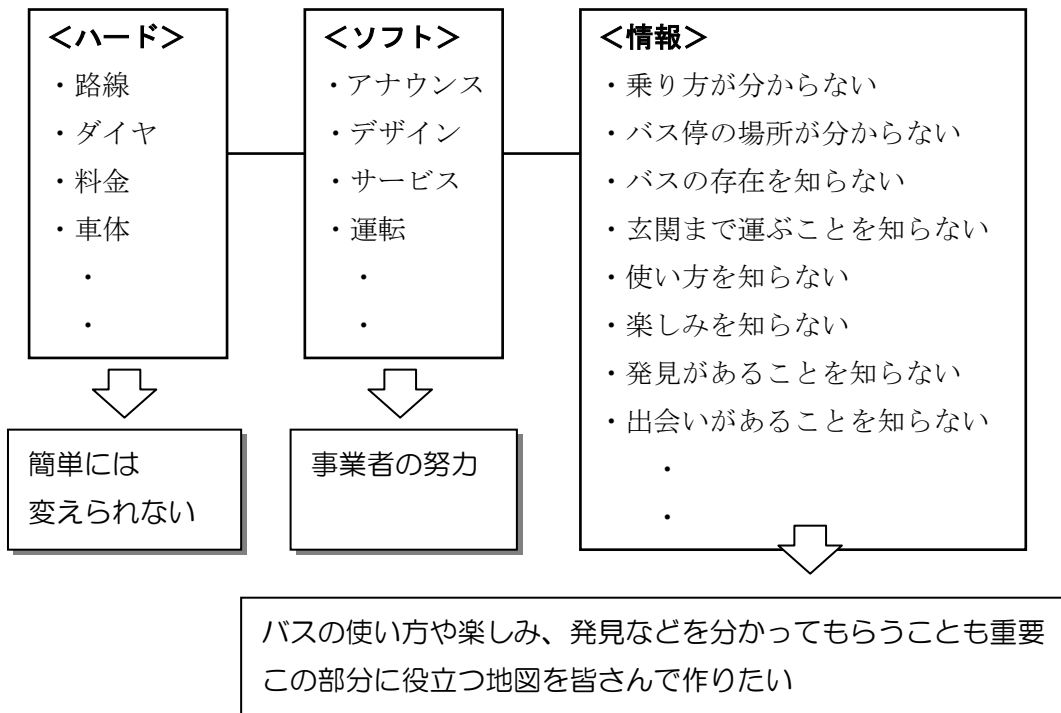
●幹線バスの乗車経験

○これまでに「おおたけ幹線バス」に乗ったことがある人 → 8人
 (約半数が乗ったことが無い！)

●バスに乗って思ったこと、感想

<p>■ルートに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3路線※を直通に <p><small>※大竹栗谷線や坂上線を含む3線</small></p> <p>■乗り方・案内に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フリー乗降にしては？ ・ 乗り方が分からない ・ 料金入るところは？ ・ 降りるときのブザー ・ 料金の支払い方の案内がない ・ アナウンスしてほしい (マイク付けアナウンスするよう 指示・女性の声で！) ・ バス停(降りる場所)がよく分からない 	<p>■車両やバス停に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バスの見た目分かりやすく ・ 乗っていると外が見えない ・ これからの運行を見据えて ブザーなどを付ける <p>■便利な点・良かったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 荷物があってもタクシーより安くて便利 ・ 施設に横付けできる ・ 雨に濡れない ・ 新しい道を発見！ ・ ちょっとした旅行気分 ・ 意外と早く着いた <p>■バス停</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バス停目立たない ・ バスのドライバーのマナー ・ 自動車のドライバーのマナーが悪い！
---	---

●バスに関する問題を整理





全体ワークでの風景



バスに関する問題の整理

③グループワークの実施概要

グループ分けは、「玖波地区」「小方地区」「大竹地区」の地域別の分け方で行った。その際、他の地域からも来てもらえるようなマップをつくることを考慮して、出来る限りその土地に住む人と、他の地域に住む人とを織り交ぜたグループ分けとした。

- ・ 玖波地区 5人
- ・ 小方地区 5人
- ・ 大竹地区 5人



グループ分けの風景

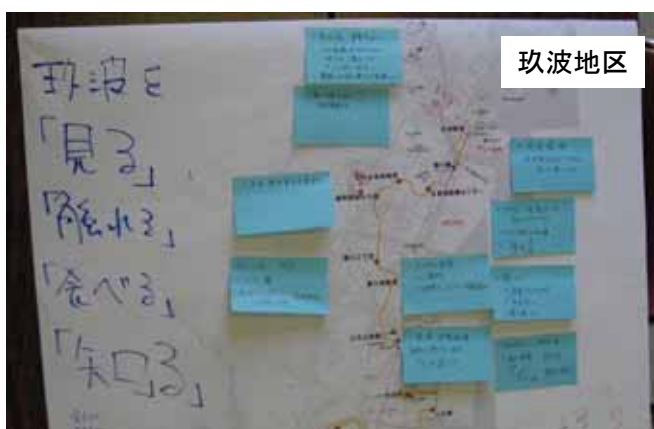
各グループで、対象の地区内の、メンバーの知る「あまり知られていない穴場」「バスに乗って出かけたくなりそうなポイント」を挙げてもらい、マーカーやポストイットを用いて、地図に落としていった。

最後に各グループの代表者に、発表をしてもらい、グループで挙げられた意見を振り返ってもらった。



発表会の風景

<各グループの成果>



(4) 第2回ワークショップの実施内容

第1回ワークショップで分かれたグループ毎に、挙げられた意見のポイントを確認しつつ、また、まちあるきで出会った人からも情報を得て、新たな発見を楽しみながら、まちあるきを行った。

表 2-3 まちあるき実施日

	大竹地区	小方地区	玖波地区
まちあるき実施日	1 / 28 (木)	2 / 18 (木)	2 / 19 (金)
出発地点	総合市民会館 (10:00 出発)	ゆめタウン (13:00 出発)	コミサロ玖波 (13:30 出発)
到着地点	総合市民会館	小方公民館	コミサロ玖波
参加人数	6名	5名	6名



まちあるきで出会った人から情報を得る様子



お寺の住職さんに史跡の説明をうけるメンバー

(5) 第3回ワークショップの実施内容

①第3回ワークショップの流れ

第3回ワークショップは、以下の流れで実施した。

表 2-4 第3回ワークショップの流れ

14:30～ (10分間)	■ (全体で) ふりかえり あいさつ プログラムの目的の再確認 第1～2回のふりかえり
14:40～ (75分間)	■ (グループ毎で) マップをつくる まちあるきのおさらい ・まちあるきで挙げたものを順におさらい ・マップのテーマ(地域の特徴)について考える
15:55～ (15分間)	■ (全体で) 発表とふりかえり 発表会
16:10～ (10分間)	全体のふりかえり

②グループワークの実施概要

グループは、まちあるきで参加したグループに分かれてもらい、いずれのまちあるきにも参加していない人については、詳しい地域に参加頂いた。

表 2-5 地区毎の参加人数

大竹地区	6名
小方地区	5名
玖波地区	7名
合計	18名

グループで話し合ってもらった主な内容は、「バスに乗って出かけたいくなる」ようなマップとして、どのような情報を載せるのが良いか、など、以下の項目。

表 2-6 グループで話し合った内容

分類	具体的な考えてもらう内容
マップに載せる題材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 載せる題材、載せない題材 ・ 使用する写真 ・ 題材のタイトル ・ 題材の記事
名所を巡るルート	<ul style="list-style-type: none"> ・ オススメルート ・ ルートの紹介文
タイトル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図のタイトル

最後に、グループでの成果を競い合ってもらうために、各グループの発表の場を設け、代表者に発表をしてもらった。



発表会の風景

③各グループの成果

[玖波地区のグループ]

テーマ： 歴史と癒しの街 玖波へようこそ



歴史のある宿場町「玖波」らしさが表れているような、ポイントを中心に選んで、散歩コースを用意しました。
コースの最後には、ホッと出来るコーヒーで、癒しをどうぞ！

テーマ： 古い文化の見える街



古くは西国街道のルート上にあり、福島正則によって築城された亀居城など、歴史のある街だけに、庭園のある民家など多くの古い文化が今でも見られるまち、小方。小方公民館をスタートに、古い文化を見つける散歩ルートを設定しました。

[大竹地区のグループ]

テーマ： お宝いっぱい、ストーンアートに出会えるまち



大竹駅をスタートとした「ストーンアートを楽しむ」60分ルートと、みどり橋をスタートとしたちょっとした珍しいお宝を巡る30分ルートを考えてみました。